現在は日勤2名、24時間勤務29名の計31名で構成。最高齢の中間出身の署員が中心で、20代の若手から50代のベテランまで勢揃い。

特集 防災の意識を高めよう!

新装1周年の美濃消防署大解剖

東日本大震災から1年。日本を揺るがした未曾有の被害に、岐阜に住む私たちも防災の必要性を痛感しました。あなたの家の防災意識は、どう変わったでしょうか?今回は、改めて見直したい災害対策にクローズアップ。昨年新しくなった美濃消防署で、消防署の仕組みと防災への取り組みを聞きました。

リニューアルから1年 機能的で士気の高い消防署に

美濃消防署の新庁舎が完成してちょうど1年。昭和47年に消防署が開設されてから、実に39年ぶりの大きなターニングポイントを迎えた1年でした。まだ真新しい新庁舎は、明るいクリーム色の外観に、美濃ならではのうだつや瓦があしらわれ、街の景観にとけこむ造り。建物は広々とした車庫を備えた3階建てになり、延べ床面積は以前の約5倍にスケールアップしています。現代都市に適した機能的な消防署へと生まれ変わったのです。

「他の消防署と比べて特別な設備を備えているわけではありませんが、古く小規模だった以前の庁舎に比べると、飛躍的に働きやすくなり、署員の士気が高まりました」と話すのは主幹の澤村さん。一刻を争う火災現場での消火活動や救助において、設備はもとより消防士のタフな心身が大切なのは言うまでもありません。消防士のみなさんが快適に働き、体を錬成し、出動時に備えて休養がとれる消防署であってこそ、市民の安全を守ることができるのです。

新設備&システムを導入した美濃消防署の内部をレポート

めったに足を踏み入れる機会のない消防署。その構造はどうなっているのでしょうか? 美濃消防署で大きく変わったのが、車庫と直結した出動準備室です。災害が起きると、消防本部から指令書が届き、防火服や感染防止衣に着替えて現場に向かいます。この指令書が出動準備室のモニターに表示されるシステムになり、着替えながら現場の状況を把握できることで、出動時間がスピードアップ。指令書が届いてから出動までの時間は、火災ならわずか30秒、救急でも1分以内と瞬時です。「消防隊がいかに早く現場に着くかが最大のポイントとなるため、効率よく出動の準備ができるモニターが役立っています」と、澤村さんも実感しているそう。

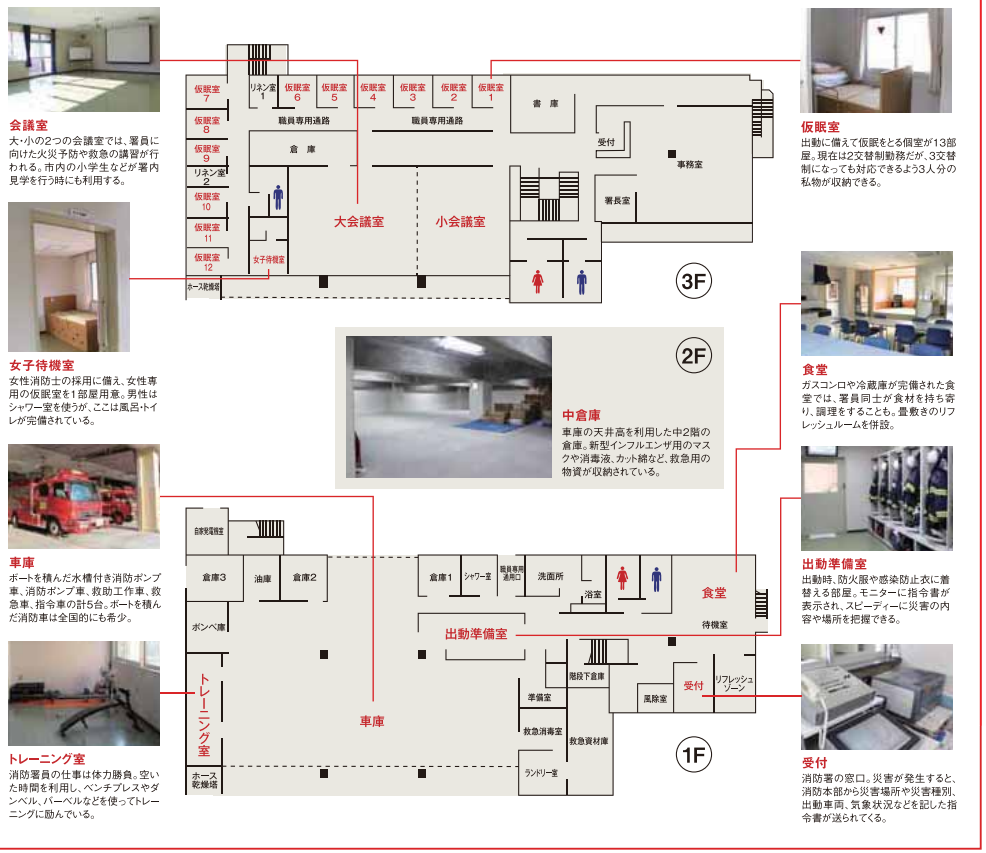
次に注目したいのが、3階にある13部屋の仮眠室です。これまでは2段ベッドを置いた大部屋で仮眠をとっていたそうですが、ゆったりしたベッドを置いた個室が用意されました。将来的な女性消防士の採用を考え、お風呂とトイレを完備した女子待機室も新設。ゆっくりと体を休めることができ、消防士の英気を養っています。さらに、今まではなかったトレーニング室や、畳で足を伸ばせるリフレッシュゾーンなどもでき、万全の体制で出動に備えています。

美濃消防署で主幹兼地震対策官を務める澤村鶴人さん(左)、副署長の細野正則さん(右)にお話を伺いました。

住宅用火災警報器の普及促進 耐震金具で家具の固定を

平成23年に関市・美濃市で起きた火災件数は68件。春先から初夏にかけて空気が乾燥する時季に多く発生しており、美濃消防署では注意を呼びかけています。とりわけ強化しているのが、住宅用火災警報器の設置です。昨年6月に法律によって設置が義務化されたものの、関市・美濃市合わせて64%しか普及していない現状。副署長の細野さんは、設置の必要性をこう話します。「建物火災による死者のうち、約9割が住宅火災です。さらにその6割が逃げ遅れによるもの。住宅火災の死者数は、警報機の設置によって1/3に減少するというデータがあります。設置義務のある寝室と階段はもちろん、火災が発生しやすいキッチンや居間にもできるだけ設置してください」。

また、美濃市内では震度5以上が予測されている東海地震・東南海地震については、「阪神・淡路大震災の場合、犠牲者の約8割が住宅などの崩壊による圧死と言われています。自分の命を守るために、できる対策は必ずあります」と言います。家屋の耐震化が難しくても、耐震金具で家具を固定したり、非常食を準備しておくだけでも安心感が違うもの。緊急災害時は救助の到着が遅れたり、ライフラインの復旧までに時間がかかる可能性があるので、最低3日分、できれば1週間分の食料と飲料水が不可欠です。この機会に家族みんなで火災や地震対策について見直し、防災に対する意識を高めましょう。



※掲載内容は3月26日に取材したものです。

Information

中濃消防組合 美濃消防署
美濃市曽代18-15
☎0575-33-0119(代)

★美濃市では65歳以上の一人暮らしの高齢者を対象に、救急情報キットを無料配布中。緊急の連絡先やかかりつけ医などを記したメモを専用の容器に入れ、冷蔵庫で保管しておくと、救急の際に必要な情報が伝達できます。

あなたの家は大丈夫? 防災チェックポイント

以下の項目がきちんと守れているか再度確認し、家族みんなで意識を改めましょう。

地震対策

- □ 棚の収納は重いものは下、軽いものは上を徹底する
- □ 家具の下部の前方に板を入れ、壁にもたれ気味に設置する
- □ 寝る場所に家具が倒れてこないように配置する
- □ つり下げ式の照明は、鎖と金具で天井と結びつけて補強。蛍光灯は両端を耐熱テープで留める
- □ 耐震金具で家具を固定する
- □ 窓ガラスは飛散防止フィルムを貼る

火災対策

- □ 寝たばこは絶対にやめる
- □ ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使用する
- □ ガスコンロのそばを離れるときは、必ず火を消す
- □ 住宅用火災警報器を設置する
- □ 住宅用消火器等を設置する
- □ 寝具・衣類・カーテンには防炎品を使用する
- □ 隣近所との協力体制をつくり、お年寄りや身体の不自由な人を守る